

番号	科目名	単位数	学年	学科(系列・類型)	必修・選択
306	発展論理国語	3	3	総合学科	系列選択D

履修条件、選択上の留意事項等
2年次に「論理国語」を履修していること（総合学科に限る）

科目の目標
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を深く身に付けるようにする。 (2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることを、実践的にできるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わり続けようとする態度を養う。

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。 文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めること。
② 思考・判断・表現	「書くこと」においては、立場の異なる読み手を説得するために、批判的に読まれることを想定して、効果的な文章の構成や論理の展開を工夫すること。 「読むこと」においては、設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりすること。
③ 主体的に学習に取り組む態度	日常生活に溢れる様々な文章を題材に、適切に読み取る力と、自らの考えを正確に相手に伝えるための技術を習得し、実践できるように努力を重ねていくこと。
評価の方法	
ペーパーテスト（中間・期末）、授業プリント、Ｃラーニングでの発言・議論	

学習計画						
月	単元 (項目)	題材 (使用教科書項目)	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	評論への招待	段落相互の関係	論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。(知識及び技能 (I) のア)	○		
5	評論文の読み方 (段落の構造 指示語、接続語 クロスリード)	対比	文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握すること。(「読むこと」 (I) のア) 論理的な文章や実用的な文章を読み、その内容や形式について、批評したり討論したりする活動。 「論理国語」で学習した表論文読解の基礎力を総合的に復習し、的確に「読む」技術を身につけようとする姿勢と態度を伸張させる。		○	
		具体と抽象				○
		レトリックー比喻の力				○
		複数文章の比べ読み				
		【中間テスト】		○	○	
6	〈私〉のなかの〈世界〉問いかける言葉	話しかける言葉 (高橋源一郎)	論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。(知識および技能 (I) のイ) 人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めること。(「読むこと」 (I) のカ) 他者の主張を読み取り、自己の主張と比較する姿勢を養う。	○		
7	ことば、この人間的なもの ことばの意味	他者の言葉 (内田樹) ◎読むことから書くことへ	文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めること。(知識および技能 (I) のエ) 文章の構成や展開、表現の仕方などについて、自分の主張が的確に伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりすること。(「書くこと」 (I) のカ) 他者の主張を批判的に読み取り、自己の主張と比較し、自らの主張を表現できる態度を実践する。	○	○	○
			【期末テスト】		○	○

月	単元 (項目)	題材 (使用教科書項目)	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
9	〈世界〉のなかの 〈私〉関わる言葉	現実に噛みつかれながら (ブレイディみかこ)	情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め使うこと。(知識および技能 (2) のイ) 立場の異なる読み手を説得するために、批判的に読まれることを想定して、効果的な文章の構成や論理の展開を工夫すること。(「書くこと」(1) のウ) 新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深めること。	○		○
	都市という現象 ひろがる言葉	グーグルマップの世界 (松岡慧祐)	主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めること。(知識および技能 (2) のア) 主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈すること。(「読むこと」(1) のウ) 筆者の主張を支える資料を読み取り、他のデータと比較して批判的に読む姿勢を養う。	○		○
		【中間テスト】		○	○	
11	〈他者〉と向きあう 呼びかける言葉	「つながり」と「ぬくもり」 (鷲田清一)	文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めること。(知識および技能 (1) のウ) 文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価すること。(「読むこと」(1) のエ) 自分たちの生活に近い題材の評論を読むことで、日常生活の中に見られる事項を抽象的に分析し、自らの生活に還元して考えることができる。	○		○
	芸術の創造力 形づくる言葉	マンガの哲学(永井均)	推論の仕方について理解を深め使うこと。(知識および技能 (2) のウ) 多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にすること。(「書くこと」(1) のエ) 他の作者の文章やマンガ作品を比較読みし、筆者の主張を支える例を数多く見つけることができる。	○		○
		【期末テスト】		○	○	
1	AIと人間 極める言葉	ふたつの誤り(福岡伸一)	主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めること。(知識および技能 (2) のア) 個々の文の表現の仕方や段落の構造を吟味するなど、文章全体の論理の明晰さを確かめ、自分の主張が的確に伝わる文章になるよう工夫すること。(「書くこと」(1) のオ) 専門的な文章を、言葉の意味を増やすことで理解し、反論を想定した自らの主張を強めていくことができる。	○		○
	明日の世界を構想する みちびく言葉	現代社会はどこに向かうのか(見田宗介)	新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深めること。(知識および技能 (3)) 設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりすること。(「読むこと」(1) のキ) 同様のテーマを持つ文章と比べ読みをすることで、現代社会に内在する問題に着目し、自らの問題意識を深くすることができる。	○		○
		【学年末テスト】		○	○	

番号	科目名	単位数	学年	学科(系列・類型)	必修・選択
307	英語コミュニケーションⅠ えいご えんしゅう 演習	3	3	総合学科	系列選択D

履修条件、選択上の留意事項等

4年制大学、短大、専門学校等進学希望者が望ましいが、英語に対して意欲的に取り組めるのであれば、就職希望者も可。

科目の目標

- ・入試や共通テストに欠かせない英語の長文を読む力を養う。
- ・自分自身のことや自分の意見を英語で書き、話すことができる。
- ・語彙力を伸ばし、基本的な文法事項を学びながら、入試問題をういて入試に対応するための応用力を身につける。

評価の観点とその趣旨

① 知識・技能	外国語を聞いたり読んだりして、語彙を習得し、文法事項や英文の情報、考えなどを理解する。
② 思考・判断・表現	外国語で日常で使う身近な表現を理解したり、自分の考えを書き、それを相手に伝えるなど自分自身のことを英語で表現できる。
③ 主体的に学習に取り組む態度	英文のリポートやペアでのスピーキング活動等、積極的に言語活動を行い、英語でのコミュニケーションを図ろうとする。異文化に興味を持ち、題材となる英文の歴史的背景や文化を理解する。

評価の方法

定期試験、パフォーマンステスト（スピーキング、会話等）、文法や単語の小テスト、授業態度、提出物等を評価する。

学習計画

月	単元 (項目)	題材 (使用教科書項目)	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	Unit1	動詞の時制	時制（現在、過去、未来、完了）を正しく理解する。 時制を意識して英文を読み、基本的な時制の概念を理解する。	○		
	Unit2	完了	完了形を用いて自分の経験を話すことができる。	○		○
5	Unit3	助動詞	助動詞の基本的な意味や用法を理解する。 助動詞用いて自分ができることを話す。	○		○
	Unit4	受動態	又動詞の受動態を理解し、能動詞から又動詞への言ひかえができる。 助動詞を用いた受動態を理解する。 受動態を用いて簡単な英文を書くことができる。	○ ○	○	
6	Unit5	不定詞・動名詞①	不定詞に動名詞の受動態は使い方を理解し、正しく使い分けができる。 不定詞を用いたオウソノルヌ、動名詞を用いたオウソノルヌが言われる。	○	○	
	Unit6	不定詞・動名詞②	不定詞を用いた構文、動名詞を用いた構文を理解する。	○		
7	Unit7	分詞	現在分詞と過去分詞を適切に使い分けができる。 又動詞（○ガノ）不定詞・動名詞・分詞を正しく使うことができる。	○	○	
		1学期のまとめ	自分の好きなことや興味があることなどのスピーチ			○

月	単元 (項目)	題材 (使用教科書項目)	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
9	Unit8	関係詞①	関係代名詞の基本的な使い方を理解する。	○		
	Unit9	関係詞②	2つの文を関係代名詞を用いた文に書き換えることができる。 関係代名詞を用いて人物の描写ができる。		○	○
10	Unit10	比較	比較級の基本的な使い方を理解する。	○		
	Unit11	さまざまな文型	比較級を用いた特別な表現方法を理解する。 文型を理解し、英文の構造を理解する。 様々な文型を用いて適切に動詞を使い分けることができる。	○ ○ ○	○	
11	Unit12	間接疑問文	関係詞を通して、カーネル・サンダースの生い立ちを理解できる。	○		
	Unit13	接続詞	疑問文を間接疑問文に正しく書き換えることができる。 接続詞の意図と活用を正しく理解し、接続詞を選択できることができる。 接続詞を用いて英文を書くことができる。	○ ○ ○	○ ○	
12	Unit14	代名詞	代名詞の使い方や種類を理解する。 代名詞を用いて書き換えができるようにする。	○	○	
		2学期のまとめ	2学期の文法事項を使って自由スピーチ			○
1	Unit15	前置詞	前置詞の意味や用法を正しく理解し、使い分けることができる。 位置関係を表す前置詞を用いて英文を書くことができる。	○	○	
2	まとめ					

番号	科目名	単位数	学年	学科(系列・類型)	必修・選択
308 378	数学Ⅲ	3	3	総合学科 工業科	系列選択D 類型選択E

履修条件、選択上の留意事項等
数学Ⅱ・数学B・数学Cを履修済み、または並行履修していること

科目の目標
極限、微分法及び積分法について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	極限、微分法及び積分法についての概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
② 思考・判断・表現	数列や関数の値の変化に着目し、極限について考察したり、関数関係をより深く捉えて事象を的確に表現し、数学的に考察したりする力、いろいろな関数の局所的な性質や大域的な性質に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。
③ 主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
評価の方法	
定期テスト、ワークシート、課題などの提出物への取組状況、授業への取組状況 など	

学習計画						
月	単元 (項目)	題材 (使用教科書項目)	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	関数	分数関数	分数関数のグラフをかくことができる。また、分数関数のグラフの特徴を理解する。	○	○	○
		無理関数	無理関数 $y=\sqrt{(ax+b)}$ のグラフをかくことができる。また、無理関数のグラフの特徴を理解する。	○	○	○
		逆関数と合成関数	逆関数の意味を理解し、関数の逆関数を求めることや、関数のグラフを利用してその逆関数のグラフをかくことができる。また、合成関数の意味を理解し、2つの関数の合成関数を求めることができる。	○	○	○
5	極限	数列の極限	数列の収束、発散と数列の極限の基本的な性質について理解し、数列の極限を求めることができる。	○	○	○
		無限等比数列	無限等比数列が収束する条件を理解し、そのことを用いて数列の極限を調べることができる。	○	○	
6		無限級数	無限級数について理解し、その収束、発散を調べたり、無限級数が収束するとき、その和を求めたりすることや、無限等比級数が収束する条件を理解し、その和を求めたりすることができる。また、図形への応用や循環小数の考察を通して、その理解を深める。	○	○	○
	関数の極限	関数の極限	指数関数、対数関数、などの極限を調べることができる。	○	○	○
		三角関数と極限	三角関数の極限を調べることができる。	○	○	○
7		関数の連続性	関数の連続性及び中間値の定理について理解し、ある区間における実数解の存在を証明することができる。	○	○	
9	導関数	微分係数と導関数	導関数の定義にしたがって、基本的な関数の導関数を求めることができる。また、導関数の基本的な性質を理解する。	○	○	
		導関数の計算	積・商の導関数についてや合成関数の微分法及び逆関数の微分法について理解し、それらを用いていろいろな関数の導関数を求めることができる。	○	○	○
		いろいろな関数の導関数	三角関数の導関数について理解し、合成関数の微分法を用いて、三角関数を含む関数の導関数を求めることができる。 自然対数の底eを導入し、対数関数の導関数を理解する。また、対数微分法を理解し、それを用いて、指数関数の導関数を求めることができる。	○	○	

月	単元 (項目)	題材 (使用教科書項目)	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
9	導関数	第 n 次導関数	高次導関数について理解し、第 n 次導関数を求めることができる。	○	○	
10	導関数の応用	曲線の方程式と導関数	陰関数表示について理解し、導関数を求めることができる。	○	○	○
		接線の方程式	曲線の接線の方程式及び法線の方程式を求めることができる。また、媒介変数で表された関数の微分について理解し、導関数を媒介変数で表したり、媒介変数で表された曲線の接線の方程式を求めたりすることができる。	○	○	○
		平均値の定理	平均値の定理を理解し、不等式の証明に活用できる。	○	○	○
		関数の値の変化	平均値の定理について理解し、平均値の定理に基づいて関数の増減に関する性質を証明することができる。また、関数の増減を調べたり、関数の値の変化を調べて、極値を求めたりすることができる。	○	○	
11		関数のグラフ	曲線の凹凸に関する性質を理解する。また、これまでに学習したことを用いていろいろな関数のグラフの概形をかくことができる。	○	○	○
	いろいろな応用	方程式、不等式への応用	微分法を用いて、関数の最大値・最小値を求めることができる。微分法や平均値の定理を用いて、不等式を証明することができる。また、方程式の実数解の個数を調べることができる。	○	○	
		速度と加速度	運動する点の速度・加速度が導関数を用いて表現できることを理解する。	○	○	○
		近似式	1次近似式について理解し、関数の近似式を求めることができる。	○	○	○
	不定積分	不定積分とその基本性質	不定積分の基本的な性質や公式を理解し、基本的な関数の不定積分を求めることができる。	○	○	○
12		置換積分法と部分積分法	置換積分法について理解する。また、この方法により不定積分を求めることができる。	○	○	○
		いろいろな関数の不定積分	部分分数分解及び三角関数の加法定理から導かれる積を和・差に直す公式について理解する。また、これらを用いて分数関数や三角関数を変形して、不定積分を求めることができる。	○	○	
1	定積分	定積分とその基本性質	いろいろな関数の定積分の値を求めることができる。	○	○	
		置換積分法と部分積分法	置換積分法や部分積分法を用いて、定積分の値を求めることができる。また、偶関数と奇関数の定積分の性質を理解し、定積分の値を求めることができる。	○	○	○
		定積分のいろいろな問題	区分求積法の考え方を理解し、和の極限値を求めることができる。	○	○	
2	積分法の応用	面積	いろいろな曲線で囲まれた図形の面積の求め方を理解する。また、その値を求めることができる。			
		体積	立体の体積が定積分によって求められることを理解する。また、その値を求めることができる。	○	○	○
		道のり	曲線の長さが定積分によって求められることを理解する。また、その値を求めることができる。	○	○	○
		曲線の長さ		○	○	

番号	科目名	単位数	学年	学科(系列・類型)	必修・選択
309 330	ちりたんきゅう 地理探究	6	3	総合学科	選択

履修条件、選択上の留意事項等

D選択「地理探究①」、G選択「地理探究②」を同時履修。

科目の目標

社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追及したり解決したりする活動を通してグローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 地理に関わる諸事象に関して、世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や、世界の諸地域の地域的特色や課題などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる技能を身に付けるようにする。

(2) 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、系統地理的、地誌的に、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

(3) 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深める。

評価の観点とその趣旨

① 知識・技能	地理の情報や規則性・傾向性を読みとり、地理的な特色を理解・解釈している。地理的事象の地理に関わる諸事象について、多面的に理解し、諸資料から情報を効率的にまとめる技術を身に付けている。
② 思考・判断・表現	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察・構想したことを効果的に説明したり、議論したりする力を養う。
③ 主体的に学習に取り組む態度	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追及、解決しようとする態度が身についている。日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深める。

評価の方法

記述内容の点検、確認、分析
行動態度の観察、確認、分析
(定期テスト、小テスト、課題レポート、ノート・プリント等提出物・振り返り、授業への取組状況 等)

学習計画

月	単元 (項目)	題材 (使用教科書項目)	単元や題材など内容のまとめりと学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	地形	地形の成因	各種地形の成因について表現することができる。		○	
		大地形	大地形と人々の暮らしについて理解している。	○		
		河川・海岸の小地形	地形が影響する諸課題について主体的に解決しようとしている。			○
		その他の地形	特徴的な地形がどのような気候や環境で形成されたのかを考察し、表現している。		○	
5	気候	気候の成り立ち	気候の違いはどのように生まれるのかを表現することができる。		○	
		気候と生態系	気候と植生・土壌の関係性について理解している。	○		
		気候区分	気候区分の基準や指標について理解している。	○		
		熱帯	熱帯の分布や生活について、多面的・多角的に表現している。		○	
		乾燥帯	乾燥帯の分布や生活について、多面的・多角的に表現している。		○	
		温帯	温帯の分布や生活について、多面的・多角的に表現している。		○	
		冷帯・寒帯	冷帯・寒帯の分布や生活について、多面的・多角的に表現している。		○	
		高山気候	高山気候の分布や生活について、多面的・多角的に表現している。		○	
6	日本の自然環境	気候変動	地球規模で発生している気候変動について、その問題点を理解し、主体的に解決しようとしている。			○
		日本の地形	日本付近は複雑な地帯構造であることを理解している。	○		
		日本の気候	地形や気象条件によってどのような違いが生じるのかを表現している。		○	
		災害と防災・減災	開発に伴って新たに見られるようになった課題を主体的に追及、解決しようとしている。			○
	地球環境問題	地球環境問題とは	地球環境問題にはどのようなものがあるのかを理解している。	○		
		さまざまな地球環境問題	さまざまな地球環境問題についてそのメカニズムを考察し、表現することができる。		○	
		地球環境問題の解決に向けて	地球環境問題について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追及しようとしている。			○
	農林水産業	農業の発達と分布	農業が自然環境と密接に結びついていることを理解している。	○		
		農業の地域区分	各種農業を場所の特徴や場所の結びつきなどに着目して多面的・多角的に考察し、表現している。		○	
		農業の現状と課題	世界と日本の農業の課題についてよりよい社会の実現を視野に主体的に追及しようとする。			○
		世界と日本の林業	木材の伐採が盛んな地域とその利用方法を多面的・多角的に考察し、表現している。		○	
		世界と日本の水産業	水産業についてその特徴や近年の動向について理解している。	○		

月	単元 (項目)	題材 (使用教科書項目)	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
7	食料問題	世界と日本の食糧問題	食料問題についてよりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。			○
	エネルギー 鉱産資源	エネルギー資源の種類と利用	エネルギーの種類とその移り変わりを理解している。	○		
		化石燃料の分布と利用	化石燃料の分布について既習の知識を生かし、多面的・多角的に考察し、表現している。		○	
		電力の利用	各国の発電方法の違いを多面的・多角的に考察し、表現している。		○	
		鉱産資源の種類と利用	鉱産資源の種類と分布の偏りを理解している。	○		
	資源・エネルギー問題	資源・エネルギーをめぐる課題	資源・エネルギーをめぐる問題についてよりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。			○
		日本の資源エネルギー問題	日本の資源・エネルギー問題について今後どのようにしていくべきか、主体的に追究しようとしている。			○
	工業	工業の発達と種類	工業の発達と種類について理解している。	○		
		工業の立地	工業の立地についてその理由を考察し、表現している。		○	
		世界の工業地域	世界の工業地域の特徴と工業形態の移り変わりを理解している。	○		
		現代世界の工業の現状と課題	工業の課題についてよりよい社会の実現を視野に主体的に追究している。			○
		工業の知識産業化	各国でどのような産業が生まれているか理解している。	○		
		日本の工業	日本の工業の内訳と移り変わりを多面的・多角的に考察し、表現している。		○	
9	第3次産業	経済発展と第3次産業	第3次産業の割合が高い国の共通点を理解している。	○		
		商業の現状と変化	各種商業施設の分布の特徴を多面的・多角的に考察し、表現している。		○	
		さまざまな3次産業	第3次産業の広がりについて理解している。	○		
	交通通信	世界を結ぶ交通と情報通信	交通機関の特徴を理解し、交通機関や情報通信技術の発展がもたらしたものを主体的に追究しようとしている。			○
		日本の交通	日本の自然環境・社会環境と交通機関との関係性を多面的・多角的に考察し、表現している。		○	
	観光	日本と世界の観光	世界の観光客の移動や観光の変化について理解している。	○		
	貿易と経済圏	世界の貿易と地域間格差	地域間格差の要因について多面的・多角的に考察している。		○	
		貿易の自由化と経済連携	FTAやEPAなどのメリットについて理解している。	○		
		日本の貿易	日本の貿易の特徴と課題について主体的に追究しようとしている。			○
	人口	世界の人口	人口が増加している地域、減少している地域の特徴を多面的・多角的に考察し、表現している。		○	
		人口の移動	世界的に見た人口の移動とその要因を理解している。	○		
	人口問題	世界の人口問題	先進国と途上国で異なる人口問題について主体的に追究しようとしている。			○
		日本の人口問題	日本の少子高齢化などの人口問題についてその解決策を主体的に追究しようとしている。			○
	村落と都市	集落の成り立ち	集落の立地の共通点を多面的・多角的に考察し表現している。		○	
		村落の形態	さまざまな村落の形態について、その理由とともに理解している。	○		
		都市の成立と形態	都市の形態や機能について理解している。	○		
		都市圏の拡大	都市圏の拡大の推移とその構造について理解している。	○		
	都市問題	発展途上国の問題	発展途上国の都市・居住問題について、多面的・多角的に考察し、表現している。		○	
		先進国・日本の問題	先進国・日本の都市・居住問題について、問題解決に向けて主体的に追究しようとしている。			○
10	衣食住	世界の衣服と食生活	自然環境・社会環境と衣服・食生活との関係を理解している。	○		
		世界の住居と衣食住の画一化	住居の地域性と画一化がもたらしたものを多面的・多角的に考察し、表現している。		○	
	民族・宗教	世界の民族・言語・宗教	世界の言語分布と宗教の関係を資料から読み取り、表現している。		○	
		民族問題と多文化共生	民族問題と多文化共生に向けた取り組みを理解している。	○		
	国家の領域	現代世界と国家	国家と領域について理解している。	○		
		領土問題	領土問題について理解し、問題を解決するために主体的に追究しようとしている。			○
	中国	政治体制と民族	多民族からなる中国の民族構成や分布の特徴を理解している。	○		
		農業と水産業	気候や地形と食生活の関係性について多面的・多角的に考察し、表現している。		○	
		工業化と海外進出	中国の工業化や海外進出における世界への影響を理解している。	○		
		経済発展と課題	経済発展による国内外の問題を解決するために主体的に追究しようとしている。			○
11	韓国	歴史と生活文化	歴史や生活文化を理解している。	○		
		産業の発展と生活の変化	急速な経済成長による様々な影響を多面的・多角的に考察し、表現している。		○	
	東南アジア	歴史と文化・民族	文化や民族構成の特徴を理解している。	○		
		農業とその変化	ASEAN諸国の農業の変化とその要因を多面的・多角的に考察し、表現している。		○	
		工業とその発展	ASEAN諸国の工業の発展を理解している。	○		
		ASEANの変化と課題	ASEAN諸国の課題について理解し、その課題を解決するために主体的に追究しようとしている。			○

月	単元 (項目)	題材 (使用教科書項目)	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
12	インド	急速な経済成長と産業	急速な経済成長を成し遂げた要因を多面的・多角的に考察し、表現している。		○	
		増加する人口と農村	経済成長に伴う人々の生活の変化を理解している。	○		
		社会の変化と経済格差	独特の社会構造をもちながらの経済成長による、課題を解決するために主体的に追究しようとしている。			○
	西アジア・中央アジア	イスラーム文化と生活	西アジア・中央アジアの人々の生活文化の共通点や相違点を理解している。	○		
		交易と農業	自然環境がもたらして交易や農業の方法について多面的・多角的に考察し、表現している。		○	
		豊富な資源と開発	豊富な資源とその開発、日本との結びつきを理解している。	○		
	アフリカ	歴史的背景と文化	歴史的背景と現在への影響について理解している。	○		
		他地域の結びつきと生活の変化	他地域との結びつきの変化や人々の生活の変化を多面的・多角的に考察し、表現している。		○	
		一次産品への依存と課題	一次産品への依存による課題を主体的に追究しようとしている。			○
	ヨーロッパ	EUの成り立ちと結びつき	地域統合の目的を理解している。	○		
		農業と政策	農業を支援する政策とヨーロッパの農業の特徴を理解している。	○		
		変化する工業	工業と工業地域の移り変わりを多面的・多角的に考察し、表現している。		○	
		EUの拡大による影響と課題	EUの拡大による課題を主体的に追究しようとしている。			○
1	ロシア	成り立ちと体制変化	ロシアの誕生と国家体制の変化について理解している。	○		
		体制変化と産業	国家体制の変化による産業の変化について多面的・多角的に考察し、表現している。		○	
	アメリカ	移民国家としてのアメリカ	アメリカの発展について移民と関連付けて理解している。	○		
		世界への食糧生産	アメリカの農業の特徴を多面的・多角的に考察し、表現している。		○	
		進展する科学技術と産業	アメリカの産業の発展とその要因を理解している。	○		
		多民族社会と移民	移民増加に伴う課題を主体的に追究しようとしている。			○
	ラテンアメリカ	ヨーロッパの影響	ラテンアメリカにおけるヨーロッパの影響を理解している。	○		
		大土地所有制と農業	農業の発展とラテンアメリカの歴史的背景を多面的・多角的に考察し、表現している。		○	
		工業化と経済発展	モノカルチャー経済からの脱却と工業発展の推移について理解している。	○		
	オーストラリアとニュージーランド	移民と多文化社会	多文化社会の実現への推移とその方法を理解している。	○		
		自然を生かした産業	オーストラリアとニュージーランドの農業の類似点と相違点を資料から読み取り表現している。		○	
		アジア・太平洋圏との結びつき	世界との結びつきの変化とその理由を多面的・多角的に考察し、表現している。		○	
2	将来の国土の在り方	日本の強みと課題	日本の地理的な課題を主体的に追究しようとしている。			○
	持続可能な日本の国土像	課題の把握	日本の国土像について探究していくための課題を設定している。	○		
		課題の追究	日本の国土像のついでに課題を多面的・多角的に考察し、表現している。		○	
		課題の解決	日本の国土像の課題を解決するために主体的に追究しようとしている。			○

番号	科目名	単位数	学年	学科(系列・類型)	必修・選択
310	フードデザイン	3	3	総合	選択

履修条件、選択上の留意事項等
食物系専門学校・栄養系大学志望の生徒

科目の目標
・栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識と技術を習得する。 ・食生活を総合的にデザインするとともに食育の推進に寄与する能力と態度を育てる。

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネート等の基礎的な調理技術と知識を習得する。
② 思考・判断・表現	食生活を総合的にデザインする様々な条件・状況に応じた食品や調理法の選択ができる。
③ 主体的に学習に取り組む態度	食生活を総合的にデザインする態度を育て、食生活・食文化に対する興味関心を高める。
評価の方法	
学習内容に関心を持ち、授業での考えをまとめ発表する意欲、課題を見つけ解決に向けて取り組む態度等を多面的に評価する。 調理実習と実習報告、レポート等による知識・技術の習得状況や思考・判断・表現力について多面的に評価する。	

学習計画						
月	単元 (項目)	題材 (使用教科書項目)	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	食を取り巻く現状 食事の意義と役割	第1章 食生活と健康	自分の食生活を振り返り現状を認識し、課題を見つける		○	
5	栄養素の働き	第2章 栄養素の働きと食事 計画	各栄養素の機能と代謝を理解し、それらの消化・吸収、排泄についてその仕組みの概要を理解する。	○		
6	調理の基本	第4章 調理の基本	調理の目的を理解し、日常食、行事食、供応食などの調理に必要な知識と技術を習得する。	○		
7	食事テーマの設定と 献立作成	第2章 栄養素の働きと食事 計画	栄養素のバランスのとれた献立を考える。			○
8						
9	食品の特徴	第3章 食品の特徴表示安全	よく使用される食品について、特徴や調理上の性質・成分の変化を理解する。	○		
10	料理形式と献立 ①西洋料理 ②中国料理	第5章 料理形式とテーブル コーディネート	フランス料理・中国料理の特徴や献立構成を理解し、献立作成ができるようにする。		○	
11	③日本料理	第5章 料理形式とテーブル コーディネート	日本料理の特徴や、食卓構成・作法、供応に伴うマナーを理解する。		○	
12	食品の選択と調理	第6章 フードデザイン実習	自由献立調理を通し、知識や技術の向上を図る。	○		
1	食育の意義	第7章 食育	伝統食と行事食などの食文化と世界の食文化と比較し、理解を深める。			○
2	テーブルコーディネートの サービスの実習	第5章 料理形式とテーブル コーディネート	食卓空間を演出する感性や表現力を養う。		○	
3						

番号	科目名	単位数	学年	学科(系列・類型)	必修・選択
311	観光ビジネス	3	3	総合学科	選択

履修条件、選択上の留意事項等
特になし

科目の目標 商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、観光ビジネスの展開に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 観光ビジネスについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 観光ビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 (3) ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、観光ビジネスに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	企業における事例など実際の観光ビジネスと関連付けられ、ビジネスの様々な場面で役に立つ観光ビジネスに関する知識と技術を身に付けている。
② 思考・判断・表現	唯一絶対の答えがないことの多い経済社会にあって、観光ビジネスをはじめとした様々な知識、技術などを活用し、観光ビジネスに関する課題を発見するとともに、企業活動が社会に及ぼす影響を踏まえ、顧客についての理解、市場の動向、観光ビジネスに関する理論、データ、成功事例や改善を要する事例など科学的な根拠に基づいて工夫してよりよく解決することについて考えている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら観光ビジネスについて学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的に関わり、観光資源の効果的な活用、マーケティング、観光の振興策の考案と実施などに責任をもって取り組んでいる。
評価の方法	
(知識・理解) 定期考査、確認テスト (思考・判断・表現) ワークシート、レポート (主体的に学習に取り組む態度) 実習日誌、議事録、ワークシート ※観点別に評価し、評定はこれを総括する。	

学習計画						
月	単元 (項目)	題材 (使用教科書項目)	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	Introduction 第1章 観光ビジネスの概要	観光ビジネスを学ぶ意義を理解する。 1. 観光ビジネスの担い手と特徴 2. 観光ビジネスの動向	・観光ビジネスを学ぶ意義を理解している。 ・観光とビジネスとの関係及び観光ビジネスの概要について理解するとともに、関連する技術を身に付けている。 ・観光ビジネスの意義と課題について理解する。	○ ○		
5	第1章 観光ビジネスの概要 第2章 観光ビジネスの主な産業 中間考査 考査返却	3. 日本の観光政策 4. 観光ビジネスと地域 1. 旅行業 2. 宿泊業	・観光とビジネスとの関係及び観光ビジネスについて自ら学び、経済や消費者の動向などを踏まえ、観光ビジネスに主体的かつ協働的に取り組む。 ・観光とビジネスとの関係及び観光ビジネスの概要について学ぶ。 ・観光ビジネスの意義と課題について理解する。 ・観光とビジネスとの関係及び観光ビジネスについて自ら学び、経済や消費者の動向などを踏まえ、観光ビジネスに主体的かつ協働的に取り組む。	 ○ ○	 ○ ○	○ ○
6	第2章 観光ビジネスの主な産業	3. 旅客輸送業 4. 娯楽業 5. その他の産業	・観光ビジネスの意義と課題について理解する。		○	
7	第3章 観光ビジネスのマーケティング 期末考査 考査返却	1. 観光ビジネスの顧客	・観光ビジネスにおけるマーケティングについて学ぶ。 ・観光ビジネスにおけるマーケティングに関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、観光ビジネスにおけるマーケティング計画を立案して実施し、評価・改善する。	○ ○	○ ○	
8				○	○	

月	単元 (項目)	題材 (使用教科書項目)	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
9	第3単 観光ビジネスのマーケティング	2. 観光ビジネスにおけるマーケティングの意義 3. 観光ビジネスのマーケティング戦略	・観光ビジネスにおけるマーケティングについて学ぶ。 ・観光ビジネスにおけるマーケティングについて自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む。	○		○
10	第4単 観光資源の発見と活用 中間考査 考査返却	1. 観光資源とは何か 2. 観光資源の保護と保全	・観光資源と観光政策について学ぶ。 観光資源の活用に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、観光資源の活用に関する計画を立案して実施し、評価・改善する。	○ ○	○ ○	
11	第5単 地方自治体の観光政策	1. 地方自治体の観光政策の概要 2. 地方自治体の観光政策の実施内容	・地方自治体の観光政策について学ぶ。 ・地方自治体の観光政策に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、観光政策を立案して実施し、評価・改善する。	○	○	
12	期末考査 考査返却			○	○	
1	第6単 観光ビジネスと観光まちづくり	1. 観光まちづくりとは何か 2. 観光まちづくりと地域の活性化のプロセス	・観光による地域の活性化について学ぶ。 ・観光による地域の活性化に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、観光による地域の活性化に関する計画を立案して実施し、評価・改善する。 ・観光による地域活性化について自ら学び、経済や消費者の動向などを踏まえ、観光ビジネスに主体的かつ協働的に取り組む。	○	○	○
2	第7単 地域の活性化と観光まちづくりの実践 期末考査 考査返却	プレゼンテーションをしてみよう	・実習に主体的かつ協働的に取り組む。			○